

RPA導入事例からの留意事項

EY新日本有限責任監査法人 FAAS事業部 西沢昌樹

EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング(株) 福田重遠

▶ Shigeto Fukuda

RPAサービス開発、ツール調査、RPA導入プロジェクトにおける業務選定、POC、インフラ&セキュリティ設計および規程整備、プロジェクトマネジメントなどのRPA導入のアドバイザリーサービスに従事。その他にAIを含めた先端テクノロジーのリスクマネジメントに関するアドバイザリーサービスにも従事している。



▶ Masaki Nishizawa

RPAサービス開発、ツール調査、RPA導入プロジェクトにおける業務選定、POC、業務改善、ロボット開発、プロジェクトマネジメントなどのRPA導入のアドバイザリーサービスに従事。その他に業務改善、経営管理・管理会計、SAPシステム、PMO関連アドバイザリーサービスにも従事している。



I はじめに

昨今の労働人口減少により企業が抱える人手不足や政府主導での働き方改革を背景として、多くの企業がRobotic Process Automation (RPA) の導入および検討を進めています。RPA導入の傾向として、業務の集約や改革を伴う大規模導入のパターンと、小さな業務を対象に導入してその成果を見極めながら対象業務を広げていくスモールスタート導入の二つのパターンがあります。

当法人では、バックオフィス業務へのRPA導入に当たりスモールスタート導入を選択しました。本稿では、当法人のRPA導入事例と、導入を通して得た留意事項の一部を紹介します。

II RPA導入事例紹介

1. 背景・目的

当法人では、以下の理由により、バックオフィス業務の中でも人事関連業務をRPAの導入対象としました。

- ▶ 働き方改革の推進部門で、生産性を高めると同時にワークライフバランスにも配慮すべきこと
- ▶ 実質的に付加価値を生まない作業を圧縮して高付加価値の作業時間を増大させること
- ▶ RPA運用知見を積み上で対外的な影響が出にくいこと

RPA導入においては、以下を目的としてプロジェ

クトを進めました。

- ▶ 職員の時間外労働時間の削減
- ▶ 職員の高付加価値業務へのシフト
- ▶ オフィス移転リソースの確保
- ▶ RPA運用知見の獲得
- ▶ ロボット開発人材の育成

プロジェクト開始から3カ月で最初のロボットが本番稼働を始め、ロボット開発人材の教育・OJTと並行してロボット開発を順次進めました。そして、プロジェクト開始から8カ月でRPA導入対象とした業務の主なロボットを三段階に分けて本番稼働させました。

(<図1参照)

2. 導入効果

人事関連業務の中でも業務量が多く、手作業も多かった労務管理、源泉徴収票発行、通勤費処理、人事異動手続などといった業務にRPAを導入して、約1,000時間の年間作業時間削減の効果を創出できました。一番効果のあった業務では、90%を超える作業時間削減につながったものもあります。

III RPA導入における留意事項

以下に挙げるRPA導入における留意事項は一部であり、それ以外の問題やハードルを一つ一つクリアしていく必要があります。そのためにも、前述のスモールス

